

笠間の陶炎祭

タイの陶芸作品を展示 5日まで

ゴールデンウィークの4月29日から5月5日まで笠間市の笠間芸術の森公園イベント広場で繰り広げられる「第36回笠間の陶炎祭」に、タイのメーカーワン財団のドイトン・プロジェクトで制作した陶芸作品が出品され、人気を博していました。また、今年は日タイ修好130周年に当たり、ドイトンコーヒーをチャリティーで提供しています。

陶炎祭は、地元の陶芸家で組織する笠間焼協同組合主催のイベントで、200軒を超える陶芸家が出品し、昨年は1週間の会期中に55万人を超える来場者が詰めかけました。

笠間市では、メーカーワン財団と陶芸の相互協力の覚書を締結し、昨年からの笠間焼の作家に技術指導を受けて制作した作品を陶炎祭に出品しています。今年、ランなどの花をモチーフにした「ドイトンの花」、マカダミアナッツを釉うわぐすりなどとして活用した「もったいない」、タイの民族衣装の鮮やかな色彩を練り込み技法などに応じた「ドイトンの芸術」の最新コレクションも発表し、来場者の関心を引いていました。

29日に行われた開会式には、メーカーワン



ドイトンのブースでクンイン妃殿下と談笑する橋本昌知事

財団会長のデイスナダ・ディスクル殿下（クンチャイ殿下）が「笠間の作家にご指導いただき、昨年より良くてきたが、まだ発展途上です。見てもらえるとうれしい。陶芸だけでなく、茨城県や結城市、笠間市との関係を農業などいろんな分野に広げていきたい」とあいさつしました。

ドイトンのブースには、橋本昌知事や山口伸樹・笠間市長、前場文夫・結城市長、臼井平八郎県議をはじめ、大勢の人たちが訪れました。陶芸美術館館長で県立笠間陶芸大学校長の金子賢治氏が、タイの作家たちを前に作品の講評を行いました。金子氏は「作品は上手に技術を習得している。今後は、作家の個性をどのように作品につなげていくかが大事。野暮ったい作品から、洗練された、その作家しか表現できない作品に仕上げしてほしい」と評価していました。

平成29年5月1日



開会式であいさつするクンチャイ殿下（上）と会場を熱心に見て回る殿下（左）



クンチャイ殿下、クンイン妃殿下とタイの作家たち 講評する金子賢治館長

日タイ修好130周年チャリティーのドイトンコーヒー

日タイ修好130周年記念ドイトンコーヒー・チャリティーも人気